



2018年10月3日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 取 締 役 船 橋 泰
(電話番号 03-6551-2601)

ヒトがん幹細胞スフェロイド移植マウス PDSX を用いた非臨床試験に関する 京ダイアグノスティクス株式会社との業務提携契約締結のお知らせ

株式会社トランスジェニック(代表取締役社長：福永 健司、福岡市)は、2018年10月3日開催の取締役会において、京都大学発ベンチャーである京ダイアグノスティクス株式会社(代表取締役社長：隅田 剣生、京都市、以下 京ダイアグノスティクス)と、ヒトのがん幹細胞を三次元培養しスフェロイドを形成させ、それを移植したがん幹細胞スフェロイド移植マウス(PDSX)^{※1}を用いた非臨床試験に関する業務提携を締結することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業務提携の理由

当社は、熊本大学発バイオベンチャーとして1998年に設立し、遺伝子破壊マウス作製受託をはじめとする基礎研究支援から非臨床試験、臨床試験、更には診断までカバーした一貫した有用なトータル創薬支援ツールをグループで提供することで医薬品開発をサポートし、社会に貢献することを目指しております。

一方、京ダイアグノスティクスは、京都大学医学研究科遺伝薬理学ユニット武藤 誠 特命教授の研究成果の事業化を目指して2016年に設立された京都大学発ベンチャーです。京ダイアグノスティクスは、消化器がんの遠隔転移についての診断法と治療法の開発に取り組んでおり、同社が開発したPDSXは、従来のPDX^{※2}法に比べ、評価期間の短縮、再現性、信頼性に優れ、化学療法薬投与実験の結果は、対応する大腸がん患者の臨床での薬効とよく一致することが示されています。

このたびの業務提携は、京ダイアグノスティクスのPDSX作製技術及び同社を通じて京都大学が保有するがん幹細胞スフェロイドバンクと、当社グループの非臨床試験技術を融合し、PDSXを用いた非臨床試験を創薬支援事業として提供することにより、がん領域の創薬研究に貢献することを目指します。

当社は、本業務提携により、製薬企業や創薬ベンチャーへのヒト腫瘍を再現した評価のサービス提供が可能になり、CRO事業セグメントの成長戦略を推進してまいります。

2. 業務提携の内容

京ダイアグノスティクスが作製したPDSXを用いて、当社グループで非臨床試験を実施します。

3. 業務提携先の概要

①	名 称	京ダイアグノスティクス株式会社
②	所 在 地	京都市左京区吉田下阿達町 46-29
③	代表者の役職・氏名	代表取締役社長 隅田 剣生
④	事 業 内 容	(1)大腸がんにおける Trio タンパク質リン酸化を指標とした予後予測診断薬の開発 (2)大腸がんの PDX モデルとスフェロイド培養を用いた個別化医療の研究
⑤	資 本 金	8,000 千円
⑥	設 立 年 月 日	2016 年 11 月
⑦	大株主及び持ち株比率	・ 武藤 誠 : 27.3% ・ 株式会社産学連携研究所 : 18.2% ・ 日本戦略投資株式会社 : 18.2%
⑧	当事会社間の関係	
	資 本 関 係	該当事項はありません。
	人 的 関 係	該当事項はありません。
	取 引 関 係	該当事項はありません。
	関連当事者への該当状況	該当事項はありません。
⑨	当該会社の経営成績及び財政状態※	
	決 算 期	2017 年 9 月期
	純 資 産	1,577 千円
	総 資 産	1,615 千円
	1 株当たり純資産	5,258 千円
	売 上 高	— 円
	営 業 利 益	▲1,384 千円
	経 常 利 益	▲1,384 千円
	純 利 益	▲1,384 千円
	1 株当たり当期純利益	▲4 千円

※2016年11月設立のため1期のみ記載

4. 日程

2018年10月3日(水) 当社取締役会決議

2018年10月3日(水) 業務提携契約締結

2018年10月3日(水) 事業開始日

5. 今後の見通し

現時点において当社の2019年3月期の連結業績に与える影響は未定ですが、CRO事業におけるPDSXを用いた非臨床試験受託を通じて、積極的に業績拡大につなげてまいります。

今後、本提携の具体的な進捗に応じて業績に影響を与えることが判明した場合には、速やかに公表いたします。

(参考) 当期連結業績予想 (2018年5月11日公表分) 及び前期連結実績

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
当期連結業績予想 (2019年3月期)	8,500百万円	300百万円	250百万円	150百万円
前期連結実績 (2018年3月期)	3,601百万円	60百万円	14百万円	20百万円

◆当社グループ関連サービス：

- ・薬効薬理試験

◆ご参考

※1 PDSX (Patient-Derived Spheroid Xenograft)

PDSX は、がん患者から摘出したがん幹細胞を三次元培養で細胞凝集 (スフェロイド) を形成させ、免疫不全マウスに移植してヒトのがん組織を再現させたモデルマウスです。

低コスト、短期間 (約2か月間)、かつ再現性高くモデルマウス作製が可能で、がんの臨床病態解析や抗がん剤の評価に有用です。

※2 PDX (Patient-Derived Tumor Xenograft)

PDX は、がん患者から摘出したがん組織サンプルを免疫不全マウスに移植し、当該マウスで増殖したがん組織を再び免疫不全マウスに移植することを繰り返し作製したモデルマウスです。がんの臨床病態解析や抗がん剤の評価に有用です。

<参考文献>

[Molecular Cancer Therapeutics, E-pub, doi: 10.1158/1535-7163.MCT-18-0128](#)

[A Chemosensitivity Study of Colorectal Cancer Using Xenografts of Patient-Derived Tumor Initiating Cells.](#)

[Maekawa H, et al.](#)

[Oncotarget. 2018 Apr 24;9\(31\):21950-21964.](#)

[An improved method for culturing patient-derived colorectal cancer spheroids.](#)

[Miyoshi H, et al.](#)

以上